

市民が誇りを持って、 安心して暮らせるまちを目指して

令和2年度 南陽市の**予算**

一般会計予算総額 前年比 **1.0%** 増

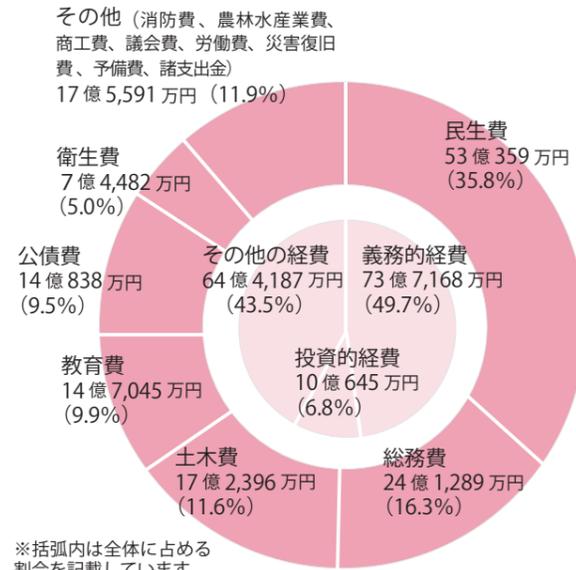
148億2,000万円

前年度当初予算 146億7000万円

経常収支比率 96.3% (前年度 93.0%)

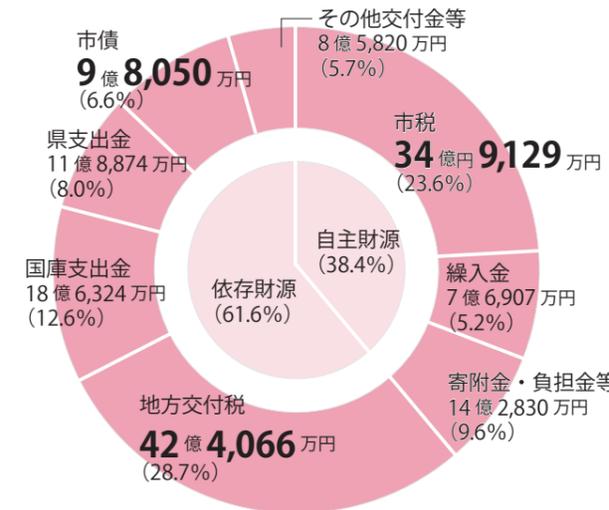
実質公債費率 11.5% (前年度 12.3%)

歳出



※括弧内は全体に占める割合を記載しています。

歳入



歳入 については、市税は法人市民税の税率改定の影響により34億9,129万円(35.2%)の増、地方交付税については、前年度の交付実績や各種補正を勘案し、42億4,066万円の増を見込みました。

また、ふるさと納税寄付金が昨年度の3億円から昨年度7億円と飛躍的に増加しました。今年度も昨年度同様の寄付金額を目指し7億円を見込んでいます。

市債は、9億8,050万円で1億1,520万円(10.5%)の減を見込みました。

歳出 は、総務費がふるさと納税事業費の増により24億1,289万円で、3億1,492万円(15.0%)の増となりました。義務的経費に含まれる人件費は、会計年度任用職員制度により市の臨時職員にかかる費用が物件費から人件費に移行されたため27億1,790万円で2億3,605万円(9.5%)の増となりました。

投資的経費は、大型事業の完了により10億645万円で3億4,569万円(25.6%)の減となりました。

一般行政費・その他は、南陽やすらぎ荘の改築に係る置広事務組合負担金(1億4,238万円)などの増により64億4,187万円で、1億3,955万円(2.2%)の増となりました。

歳出は、1年間の市の支出です

歳出予算額を行政目的ごとに分類すると「福祉や医療などの経費(民生費)」、「学校教育や生涯学習などの経費(教育費)」、「ごみ処理などの経費(衛生費)」などに分けられます。

歳出全体に占める割合は民生費が最も高く、予算の約3分の1を占めています。これは、少子高齢化の進展に伴い、福祉や医療に必要な経費が増えていることなどが主な理由です。

歳出のうち、任意に削減することのできない経費(人件費・扶助費・公債費)のことを『義務的経費』といいます。扶助費については高齢化や医療費の増大などにより年々増加していますが、人件費と公債費の削減に努めるなど、義務的経費の割合を低くする取り組みを進めています。

特定の収入がある事業については、お金の出入れを分かりやすくするため、一般会計とは分けて管理しています。市には、5つの特別会計と2つの企業会計があります。

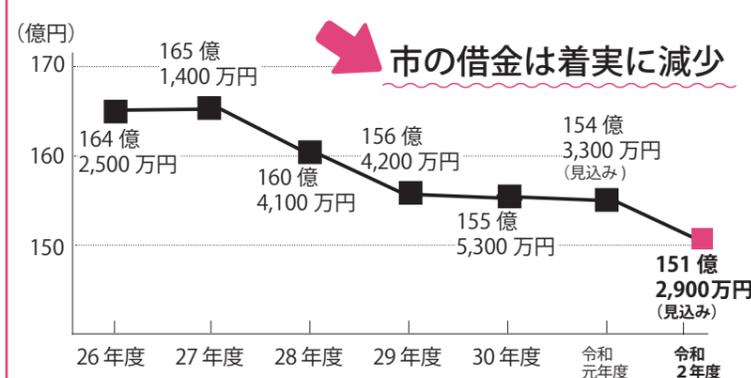
■特別会計

区分	当初予算額	前年度比
国民健康保険	33億9,995万円	△2.9%
財産区	8,755万円	△39.0%
育英事業	475万円	△13.4%
介護保険	37億2,001万円	△2.9%
後期高齢者医療	4億268万円	13.3%

■企業会計

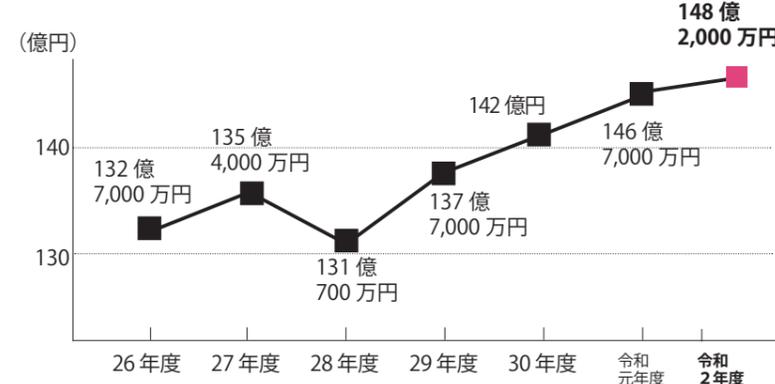
区分	当初予算額	前年度比
水道事業会計	収益的収入	8億5,216万円 △0.9%
	収益的支出	8億1,330万円 △0.8%
	資本的収入	7,052万円 1.4%
	資本的支出	4億4,663万円 19.5%
※資本的収支の差については、損益勘定留保資金、減債積立金、消費税および地方消費税資本的収支調整額で補てん		
下水道事業会計	収益的収入	10億5,646万円 △2.5%
	収益的支出	10億3,525万円 △1.8%
	資本的収入	6億5,772万円 △3.7%
	資本的支出	10億6,978万円 △3.2%
※資本的収支の差については、損益勘定留保資金、消費税および地方消費税資本的収支調整額で補てん		

□一般会計借入残高の推移



市の借金は着実に減少

□一般会計の当初予算の推移



※当初予算について、詳しくは、市ホームページをご覧ください。

南陽市 当初予算 検索

